

男子マラソン

● 39歳平田さんが独走

男子フルマラソンは、平田治さん(王寺町職員・TEAM奈良)が2年連続5回目の優勝を果たした。

第2回大会からの3連覇後、2014年は3位だったが、2015年は返り咲いた。その時は「リベンジが果たせてこれまでで一番うれしい」と喜んだ。今回は2、3位に入った19、20歳の若手を大きく離しての勝利。39歳の意地を見せた。

15^{キロ}地点までは2位以下と30秒ほどの差だったが、中間地点では2位と約1分差のリードを広げ、その後も2位以下を寄せつけず逃げ切った。

前年と違い、今回はベストコンディションではなかった。前月初め、右ふくらはぎに突然痛みを感じた。まともな練習が出来ないまま、リハビリしながらフォームを改良して大会に臨んだ。

前回同様、「前半をジョギングでもやるつもりでしっかり抑えることが鉄則のコース」をそのまま実践。今回7回目の出場となる経験がものをいった。

「さすがに練習不足で前半不安はあったが、後半にだれも抜け出さなかったので、いけると思った」と振り返った。

故障の影響でタイムは出なかったが、「来年は40歳になるが、まだまだ若いには負けられない。中年パワーを見せつけてやりますよ」と話していた。



女子マラソン

● 鹿に感謝の床呂さん

女子フルマラソンは、初出場の床呂沙紀さん(関西外大、大阪府)が2時間44分05秒で初優勝した。

ゴール直前に両手の人差し指で鹿の角を作ってゴール。

「30^{キロ}手前で体がきつくなかったが、鹿が応援してくれました」とちゃめっ気たっぷりの優勝コメントで周囲を和ませた。2016年1月の大阪国際マラソンでデビュー。

それまでは関西外大の駅伝部で活動してきた。長い区間、10^{キロ}が得意で、その延長でマラソンに挑戦。「全く自信がなかった」と振り返ったが、ぶっつけ本番で臨んだ大阪国際マラソンは2時間37分08秒の14位の好成績。一般にいわれる30^{キロ}付近の厳しさを楽々と乗り越えてのデビューだった。

これで自信が付き11月の岐阜、いびがわマラソンで2時間55分、福知山マラソンで2時間50分台をマーク。奈良マラソンで2時間44分05秒と、2度目の大阪国際マラソン(2017年)に弾みをつける結果となった。

小学校時代に、市民ランナーの父とランニングを始めた。その少女の夢が膨らんできた。卒業後は京セラに就職する。目指すは東京五輪。「2時間25分は切りたい。オリンピックはその辺りでなければ勝負にならない」。明かりが差してきた未来をしっかりと見据えた。



男子10^キ。

●居川さんが見事逆転

男子10kmは居川凌さん(ならスポRC、鳥取)が31分51秒の好タイムで制した。競技場手前でコース間違い。それでもトラックで3人を追い越してゴール前で振り切った。「最初は寒さで体が動かなかった。でも7^キ付近で呼吸が整い、トラック勝負に持ち込めた」と会心の表情だ。

今回はインターネットでの参加申し込みに失敗。これまで2回走ったフルマラソンを諦めて10^キに切り替えての初制覇だった。

高校時代に陸上を始め、大学進学後は箱根駅伝を目指したが、ケガで試合に出れずに就職。今は市民ランナーとして、仕事が終わったあと、マイペースで調整を続けている。

今回の優勝でマラソンへの思いが強くなり、「平田さんを負かしたい」と居川さん。「来年までにフルマラソンのポイント、天理の白川ダムへの登り坂を見据えてしっかりと練習したい」と意欲をのぞかせた。



女子10^キ。

●稲垣さんが競り勝つ

10^キ女子は、稲垣水美さん(香芝市)が2年ぶり2度目の総合優勝に輝いた。スタート直後から先頭に立ち、3、4^キ付近で一度は3位に入った選手に抜かれるが、折り返し地点で再逆転。その後も追いつがる後続を振り切り、トップでゴールテープを切った。追われている感があったのでしんどかった」と、厳しいレースを制して安堵の表情を見せた。

2014年よりも17秒速い37分59秒の好タイム。「最初の上りがきつかったけど、後半の下りは気持ちよく走れた」と振り返り、「前回のタイムを上回ったので及第点」と自己評価。

7歳と3歳の2児の母親。優勝を報告すると「ワーイ」と言って喜んでくれたという。「帰ったら家族で祝勝会です」と優しい母親に戻り、笑顔を見せた。

